

# 魅力あるまちづくりをFMで（魅せるFM）

～文化財施設等の新しい価値の創造と次世代への継承～



弘前市のシンボルのひとつでもある弘前城は、現在、石垣修理を行っています。

実は、この石垣修理は、約100年前にも行われていました。「ファシリティマネジメント」という言葉がまだなかったその当ても今と同じ発想をもって長寿命化を図り、今日まで引継がれてきたここに弘前市のFMの原点があります。

弘前市には、歴史的・文化的な建築物が数多く残されており、その背景には、「もつけ・じょっぱり・えふりこき」という津軽人の気質があり、その気質があるからこそ、「魅せるFM」に取り組むことができたところです。



1915年頃の石垣修理工事の様子

**弘前市の魅せるFM**  
弘前市は、創意工夫によりあらゆる地域資源（公共施設）を活用することによって、施設利用者に持続可能なサービスの提供はもとより、新しい価値の創造を図ることにより、施設利用者を魅了し、「市民に愛され親しまれる公共施設」として次世代に継ぐことを目的とした取り組みである「魅せるFM」により「魅力あるまちづくりをFMで」戦略的に実践してきました。

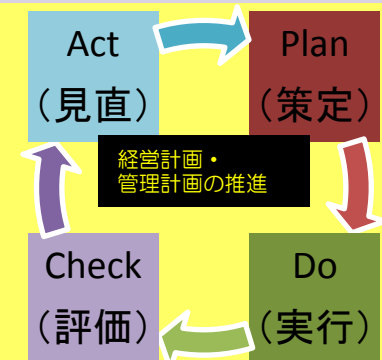
平成22年10月 「弘前市アクションプラン 2010」策定  
アセットマネジメントとファシリティマネジメントの導入

平成25年 4月 財産管理課にファシリティマネジメント担当を設置（組織化）

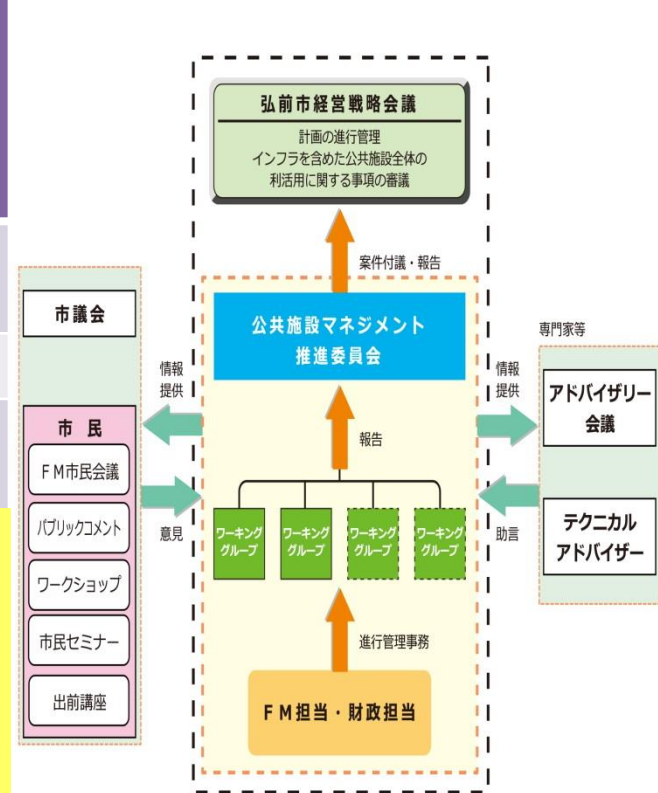
平成26年 3月 「弘前市ファシリティマネジメント基本方針」策定  
『市民に愛され親しまれる公共施設を次世代に継ぐために』

平成26年 5月 「弘前市経営計画」策定  
施策 公共施設の適正管理

平成28年 2月 「弘前市公共施設等総合管理計画」策定  
基本的な考え方  
◆施設総量の適正化・適正配置  
◆施設の長寿命化  
◆維持管理費の縮減  
◆文化財の有効活用



## FMの推進体制



# 歴史的価値だけじゃない新しい価値を創造 ～弘前公園周辺等の魅力向上～

## 市民に愛され親しまれる施設を次世代に継ぐ ～弘前市民会館・弘前市立博物館リニューアル事業～

弘前市民に「文化の殿堂」として愛され親しまれている前川國男設計の市民会館及び博物館を次世代に継ぐため長寿命化及びリノベーションを実施。時代に合わせた設備改修や機能向上を実施しつつ、棟方志功デザインの緞帳の復元やポーチ屋根の屋外カフェテラス化といった親しまれる工夫も。



【棟方志功の緞帳】



【弘前市民会館】



【弘前市立博物館】

## 「歴史を味わう」施設として活用 ～旧第八師団長官舎のコンバージョン～

会議室のみの利用であった文化財施設を市民の身近な施設にするべくカフェにコンバージョン。建物そのものの意匠を大切に、地域の素材や伝統工芸をアレンジしながらデザインに取り入れ、コーヒーとともに建物の歴史も一緒に味わってもらおう。



【旧第八師団長官舎】



【店内の様子】



## 文化財庁舎を「100年庁舎」に！ ～市庁舎増改築事業～

国登録有形文化財である本館（前川國男設計1958年竣工）の外観を生かしながら長寿命化及びリノベーションを実施。周辺の庁舎の再編・機能集約によって増築され新庁舎とともに、行政の中心として使いながら次世代に歴史的価値を継承。



【市庁舎】



【完成イメージ】

藤田記念庭園  
旧第八師団長官舎  
市庁舎  
旧東奥義塾外人教師館  
旧弘前市立図書館

● 公共施設  
● 民間の歴史的文化的施設



## 100年に1度のピンチをチャンスに！

### ～弘前城本丸石垣修繕活用事業～

弘前城天守の石垣修繕には、約10年間かかることから、観光資源としては大きなピンチとなるが、これを好機とするため、市民体験型のイベント（曳屋体験等）化より改修事業を「自分ごと化」。市民の財産として弘前公園を捉え、新たな活用方法の検討・実践を継続して実施している。



【石垣修繕工事】



【曳屋イベント】

## インフラを観光資源に活用

### ～弘前公園外濠の花筏（はないかだ）の形成～

外濠を河川化することにより水量の調整をし、生まれた流れを活用して、花筏を形成、景観価値を構築した。2014年「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」に選出され、新たな観光資源として人気となる。



【濠を埋め尽くす桜の花びら】

## 市民や観光客がくつろぐ空間を創出

### ～藤田記念庭園利活用事業～

洋館内の喫茶室に、高品質音源による「白神の音」の提供や、「りんご」や「桜」の香りによる癒しの空間により一層快適に過ごすことのできる環境を整備。



【藤田記念庭園 洋館】



## 効果 🌸弘前公園周辺等の魅力向上に寄与🌸

【指標】弘前公園周辺施設の入館者数（経営計画）			
基準値H25	45,618人	H27 214,673人（目標値上回）	目標値H29 54,460人
【指標】宿泊者数（経営計画）			
基準値H24	525千人	H27 610千人（目標値の97%）	目標値H29 630千人
【指標】観光消費額（経営計画）			
基準値H24	17,270百万円	H26 19,500百万円	目標値H29 20,724百万円



# 今だけじゃない次世代への普及・啓発

## ❁ 小学校への出前講座

### ❁ 子どもと一緒にワークショップの開催

子どもたちを『将来のメインユーザー』と位置づけ、FMに関するさまざまな取り組みに理解を深めるとともに、自分ごととして参画してもらい、その未来予想図を考えていこうという取り組み。

平成27年度 2校開催  
参加者児童 109人



【出前講座の様子】

## ❁ 学校スペース最適化の検討

「学校」を地域コミュニティの核としたまちづくりの実践にあたり、中心となる学校の機能改善に取り組むもの。  
これまでの児童・生徒中心の環境整備に加え、教職員のワークスペースとしてのアプローチを行うことで、全体的な教育環境の向上につなげようとする取り組み。

## ❁ 弘前公園の桜守

市民の宝である日本一の弘前公園の桜を「弘前方式」※と呼ばれる管理方法により次世代に引き継いで行くための樹木医を育成。

市の職員として技術の伝承を行っている。

チーム桜守 現在3名

※タブーとされた桜の剪定により長寿命化



【弘前公園の桜と桜守】

# 弘前だけじゃない津軽の中心市としてFMをけん引

## 弘前圏域定住自立圏を構成する市町村とFMの視点で様々な取り組み

## ❁ 汚水処理施設共同整備事業（MICS）

岩木川浄化センター（県）で、し尿・浄化槽汚泥等の共同処理を行うことで、し尿処理施設の更新に係る経費 約38億円を削減。  
維持管理費 約2億3千万/年 削減。



【MICS施設】

## ❁ 下水処理場統合事業

弘前市下水処理場と岩木川浄化センター（県）の統合により、処理場の改築・機械の更新に係る経費 約43億8千万円を削減。  
維持管理費 約4千万/年 削減。



【岩木川浄化センター】

## ❁ 消防広域事業

8市町村の4消防事務組合・本部を統合 消防救急デジタル無線及び高機能消防センター総合整備を新事務組合で整備したことにより 約15億8千万円を削減。



【高機能消防センター】

## ❁ 電算システム共同利用（クラウド）推進事業

4市町村で住民記録系業務、税系業務、福祉業務等を対象とした電算システムを共同利用 約2億8千500万円を削減。

## ❁ 西目屋村との教育連携

西目屋村において、少子化に伴い、生徒数が減少、教育環境の維持のため、弘前市へ中学校教育事務委託。



【東目屋中学校】

## ❁ 周辺市町村職員とともにFMを学ぶ

庁内研修会に弘前圏域定住自立圏構成市町村職員も参加。

平成25年度～平成27年度 計7回実施



【研修会の様子】

魅せるFMの取り組みにより「子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前」の実現へ！